

## 阪神電車とグループ120年のあゆみ

2025年4月12日(土)に、阪神電気鉄道は開業120年を迎える。グループ会社とともに、お客さま一人ひとりの“たいせつ”に向き合ってあゆんできた120年を、懐かしい写真を交えて振り返る。

### 第1回 1905(明治38)年～1924(大正13)年

## 日本初の都市間電気鉄道開業から、 世界水準の甲子園大運動場開設まで

### 阪神電車の誕生



御影駅周辺

阪神電気鉄道は、今から119年前の1905年4月12日、日本初の高速広軌の都市間電気鉄道として、大阪～神戸間で産声を上げました。すでにその30年前に阪神間の鉄道は開通していましたが、それとは競合しないものとして免許を取得し、開業にこぎつけたのです。路線は、阪神間に点在する集落を結び形で敷設されたため、全体にカーブが多く、駅数も今とほぼ同じ。大阪～神戸間の所要時間は90分、12分間隔での運行でした。

当初、大阪側のターミナル・出入橋駅は、現在のハービスOSAKAの西側にありましたが、その翌年には路線を東へ延伸。現在のハービスENTの場所を梅田駅とします。

その後1910年には、他社への対抗策として阪神間増設線を構想。その一部である尼崎～千鳥橋間が1917年に認可され、1924年に大物～伝法間、伝法～千鳥橋間を相次いで開業。2009年に開通する阪神なんば線の基礎となりました。

開業時の千鳥橋駅



### 鉄道開業の年に 早くもレジャー事業に進出!

阪神電気鉄道では、開業当初からレジャー事業への関心が高く、開業年の夏には関西初の海水浴場を打出に開きます。1907年には香櫛園遊園地の営業を開始するとともに、海水浴場を香櫛園浜に移設。この海水浴場は1965年まで存続しました。

1916年には、遊休化していた鳴尾競馬場を借り受けて鳴尾運動場を開設。二つの野球場を併設し、翌年8月には全国中等学校優勝野球大会が、それまでの豊中球場から会場を移して開催されることとなりました。



ところが、年々高まる社会の野球熱に、鳴尾運動場では観客を収容しきれなくなっています。お礼も、武庫川の河川改修の一環で、支流の枝川・申川が廃川となったことから、阪神電気鉄道はその敷地を購入し、後に竣工年の干支にちなんで「甲子園」と名付けられる一帯の開発に乗り出します。そして、わずか5か月足らずの工期を経て、1924年8月1日、総収容人員8万人の世界水準の野球場「甲子園大運動場」が誕生、同月13日から全国中等学校優勝野球大会の会場として利用されることとなったのです。

ところが、年々高まる社会の野球熱に、鳴尾運動場では観客を収容しきれなくなっています。お礼も、武庫川の河川改修の一環で、支流の枝川・申川が廃川となったことから、阪神電気鉄道はその敷地を購入し、後に竣工年の干支にちなんで「甲子園」と名付けられる一帯の開発に乗り出します。そして、わずか5か月足らずの工期を経て、1924年8月1日、総収容人員8万人の世界水準の野球場「甲子園大運動場」が誕生、同月13日から全国中等学校優勝野球大会の会場として利用されることとなったのです。

### CHECK!

2025年4月の阪神電車開業120周年に向けて、120年続く当社の歴史とDNAを紹介するポスターを順次掲出します。お楽しみに!



★阪神グループの  
ブランド価値経営に関する  
取組みを発信しています。

詳しくは  
こちら



<https://www.hanshin.co.jp/taisetsu/>

### 鉄道会社が自社で発電し、 さらに沿線に電力を供給?!

電車を走らせるために必要な電力は、自社の発電所から供給。この電力を活用し、鉄道開業3年後の1908年には電灯電力供給事業を開始します。1921年には家庭にも供給を始め、阪神間(今の大阪市西部から神戸市東部まで)の広域でほぼ独占的に事業展開しますが、第二次世界大戦中の1942年に、関西配電への移管をもって終わりを告げることとなりました。

### 年表

1905.4.12	神戸(三宮)～大阪(出入橋) 営業開始
1905.7	打出海水浴場開設
1906.12.21	出入橋～梅田営業開始
1907.4.1	香櫛園遊園地開設(同年7.18 海水浴場を移設)
1908.10.1	電灯電力供給事業営業開始
1909.9.30	西宮停留場前に貸家30戸完成(不動産賃貸業開始)
1914.8.19	北大阪線営業開始
1916.3	鳴尾運動場開設
1924.1.20	大物～伝法営業開始(同年8.1 伝法～千鳥橋営業開始)
1924.8.1	甲子園大運動場開設